

死刑執行をめぐる情報公開とは……

刑場を見たいですか？

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

3月12日、日本弁護士連合会の主催で、「死刑を廃止したEUからのメッセージ」という催しがありました。駐日英国大使（趣味で俳句も作るという日本語堪能な方です）・EU公使からの発言を受けて、日本の法学者、報道関係者、元法務大臣、弁護士など、各界の識者がコメントするシンポジウムでした。

★★★

「いまや国連加盟国の大多数で死刑の執行は行われておらず、死刑廃止は世界の潮流」とアピールする英国大使に、「中国やイランやイラクなどが死刑執行を続けており、人口で見れば死刑存置の方が多数だ」と死刑賛成の立場の弁護士が反論したりするなど、さまざまな見解が示されたのですが、多くの人が共通して指摘したのが、死刑をめぐる情報が充分公開されていないという問題です。

★★★

東京拘置所の処刑場が国会議員を対象に初めて公開【?】されたのは2003年でした。新築されたばかりで、まだ使われていなかった刑場でしたが、写真を撮ることも認められず、私たちは議員の記憶による説明を聞いて想像するしかありませんでした。

それが、報道関係者（法曹記者クラブに限ってですが）に公開されたのは2010年8月のことです。しかしそのときも、撮影してよい場所は決められていました。この報道後、テレビドラマでは、その写真に似せた刑場のシーンが多く見られるようになりました。マスコミが喜ぶ、絵になる情報を提供したわけです。

しかし、その「絵」から具体的な死刑執行の有様を誰がイメージできるでしょうか。

今、死刑制度を認めるとしても、死刑の執行方法として絞首刑が適切かどうか、という議論があるのですが、立ち会ってもいない一般人には考えようもありません。

★★★

シンポジウムで聞いた話によると、薬物注射が主流となっていたアメリカでは、EUが死刑に使われる薬物の輸出を禁じた上に、イメージダウンをおそれる製薬会社の製造自粛もあって、ガス殺に戻る動きもあるそうです。結局、「殺人」でしかない死刑の合理化はアウシュビッツに行き着くということなのでしょうか。